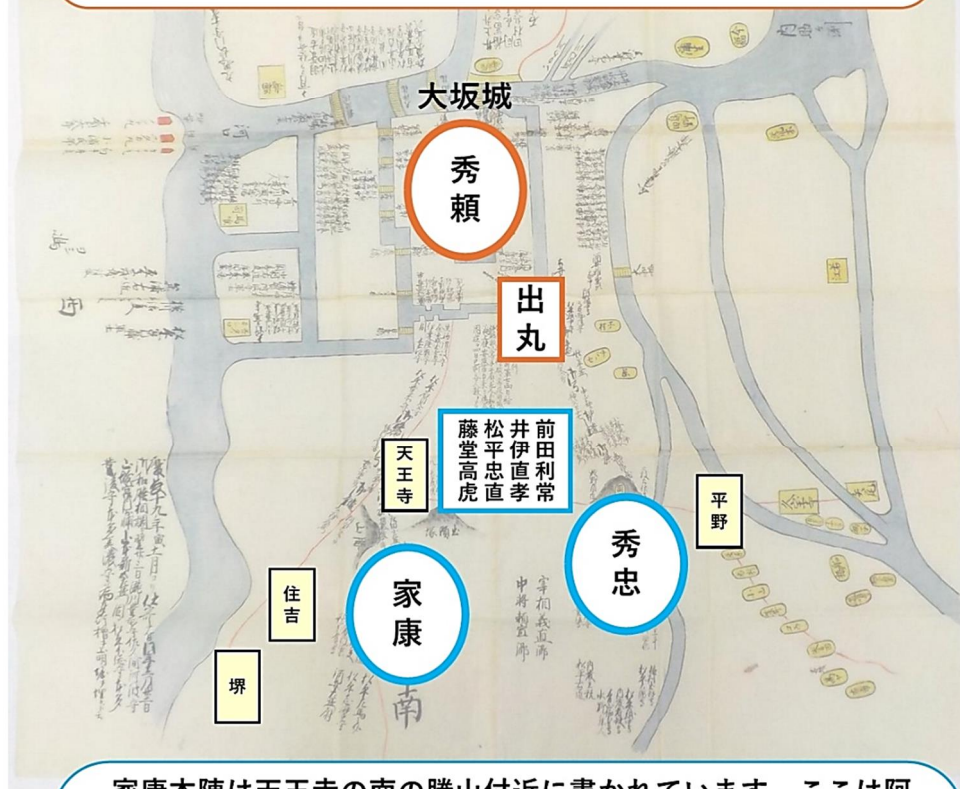
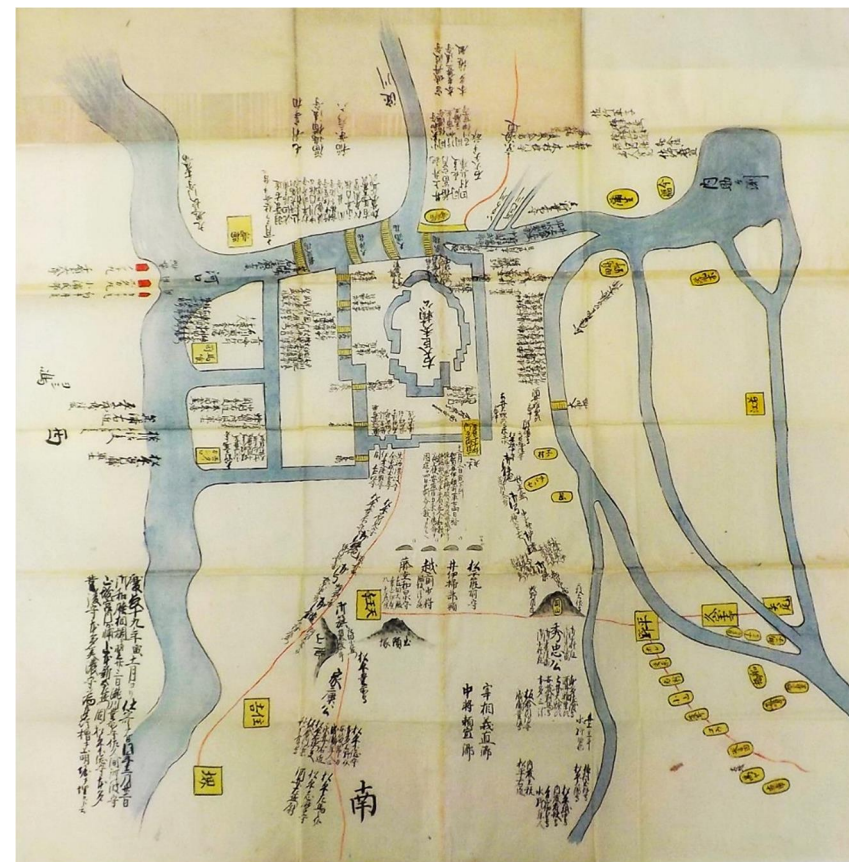


大坂城外堀には、「出丸」が描かれています。そこには「真田左衛門」、真田信繁の名前が書かれていることから、真田丸であることがわかります。出丸の横には12月3日寅下刻加賀・井伊・越前勢が堀底に忍び大柵を破り攻め寄せたものの、多数の死傷者を出したことが記されています。



家康本陣は天王寺の南の勝山付近に書かれています。ここは阿倍野から大坂城へ向かう街道の要衝でした。一般に家康は本陣を茶臼山に置いたとされていますが、付近に茶臼山の地名は見えません。そのすこし離れた東側の岡山付近に秀忠本陣が書かれています。なお岡山は御勝山とよばれていることから、絵師が両者を混同したのかもしれませんが。

家康と秀忠の陣をつなぐラインのやや北には藤堂高虎（和泉守）・松平忠直（越前少将）・井伊直孝（掃部頭）・前田利常（松平筑前守）が布陣しています。



大坂冬御陣図

年不詳／原寸：81.2cm×78.6cm

慶長19年（1614）10月、徳川家康が全国の大名に参陣を命じ、豊臣秀頼の大坂城を包囲した大坂冬の陣の布陣図です。家康は難攻不落の大坂城を攻めあぐみ、12月に講和が成立します。

石井家文書には大坂城に関する絵図が複数あり、石井家の母方岡田家が仕えた安中藩主板倉勝明（かつあき）が、大坂加番を務めたことと関わる可能性があります。絵図の一つに記名した岡田正応は、藩主が天保6年（1835）大坂加番を辞し江戸に戻る時に「東海道旅行記」（No.34）を書きました。なお正応の婿養子は、幕末～明治期に活躍した剣客岡田定五郎です。

石井忠樹家文書 P01102 No.11-1